

足 監 査 第 47 号

令和2(2020)年11月5日

足利市名草財産区管理者

足利市長 和 泉 聡 様

足利市監査委員 岡 本 篤 典

足利市監査委員 岡 部 記 和

足利市監査委員 荻 原 久 雄

令和元(2019)年度足利市名草財産区特別会計歳入歳出決算審査
意見について

地方自治法第 233 条第 2 項の規定により審査に付された令和元(2019)年度足利市名草財産区特別会計歳入歳出決算を審査したので、その結果について、次のとおり意見を提出します。

令和元(2019)年度足利市名草財産区特別会計歳入歳出決算審査意見

第1 審査の対象

令和元(2019)年度足利市名草財産区特別会計歳入歳出決算

第2 審査の期間

令和2(2020)年9月25日から令和2(2020)年10月15日

第3 審査の方法

審査は、足利市監査基準に準拠し、管理者から審査に付された令和元(2019)年度足利市名草財産区特別会計歳入歳出決算その他関係書類と会計管理者及び担当部課が所管する諸帳簿等を照合し、計数の確認を行ったほか、事務事業及び予算の執行状況等について関係職員からの説明を聴取して実施しました。

第4 審査の結果

審査に付された歳入歳出決算書及び附属書類は、前記の方法で審査した限り重要な点において、いずれも関係法令に適合し、かつ、計数も関係諸帳簿と符合し正確であり、予算の執行もおおむね良好であると認められました。

なお、歳入歳出差引残高は、出納閉鎖日現在における指定金融機関等の預金現在高証明書と一致し、正確であることを確認しました

- (注)・ 本文及び表中の金額は、原則として百の位を四捨五入し、千円単位としました。このため、合計額と内訳の計が一致しない場合や決算書と一致しない場合があります。また、前年度対比は、原則として千円単位の数値で比較しました。
- ・ 比率(%)は、原則として小数点以下第2位を四捨五入しました。このため、内訳の合計が100.0とならない場合があります。
 - ・ ポイントとは、百分率(%)を比較した場合の単純差引数値です。

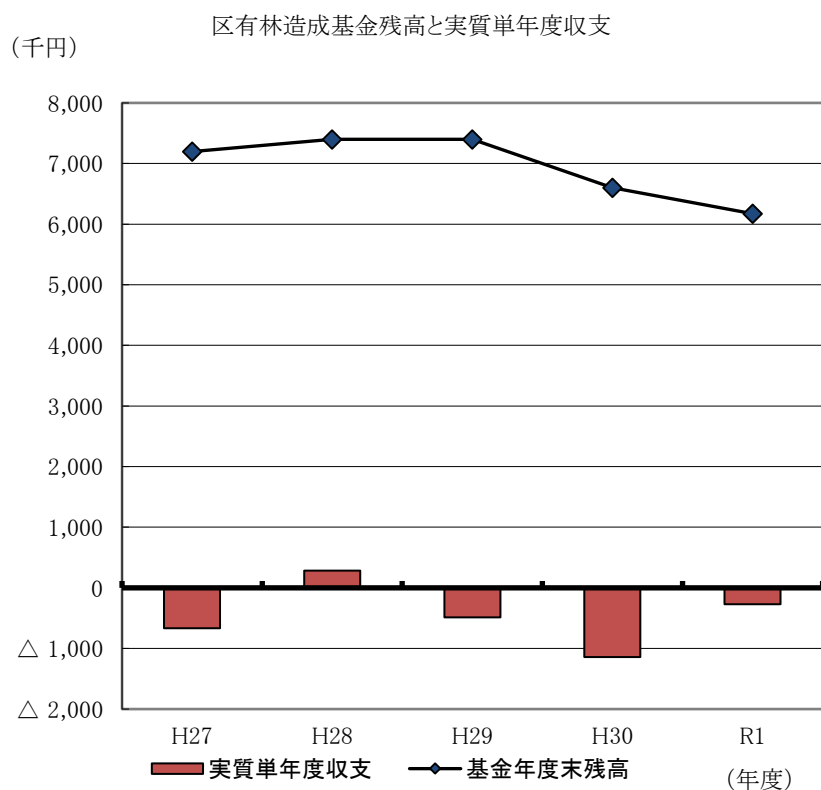
第5 審査の概要

1 財政運営の状況

本年度の財政運営の状況をみると、歳入は 1,017 千円で、前年度に比べて 39.2%減少し、歳出は 594 千円で、前年度に比べて 57.8%減少しています。

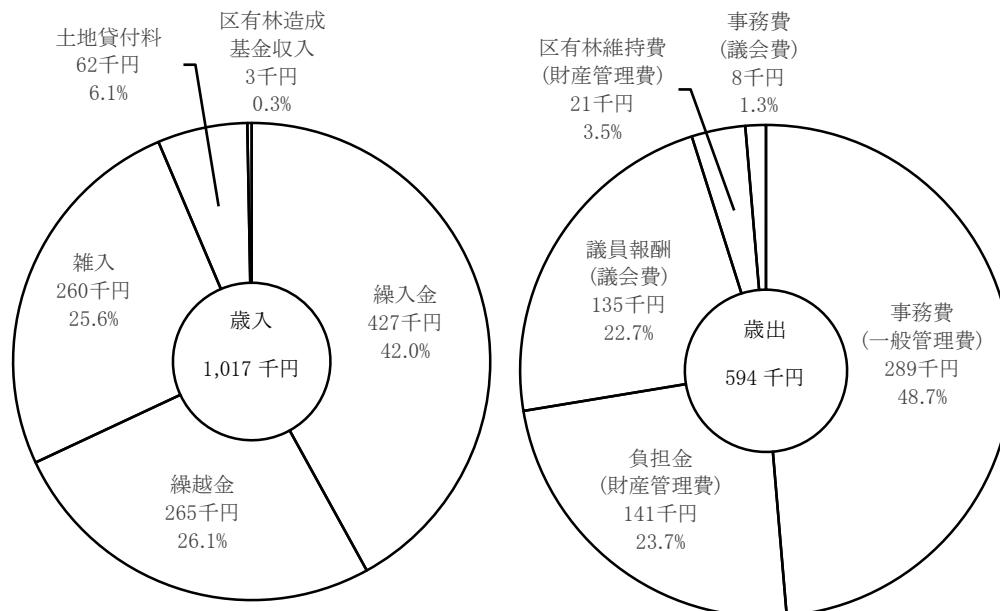
歳入の構成は、主に区有林造成基金繰入金 427 千円(構成比 42.0%)、繰越金 265 千円(構成比 26.1%)、雑入 260 千円(構成比 25.6%)となっており、歳出の構成は、主に事務費(一般管理費)289 千円(構成比 48.7%)、負担金(財産管理費)141 千円(構成比 23.7%)、議員報酬(議会費)135 千円(構成比 22.7%)となっています。

財政収支をみると、歳入歳出差引額 423 千円から前年度繰越金 265 千円を差し引いた単年度収支は 158 千円の黒字となる一方で、さらに区有林造成基金の取崩しによる繰入金 427 千円を除いた実質単年度収支については、269 千円の赤字となっています。



2 歳入、歳出

本年度の歳入歳出決算の構成比率は、次のとおりです。



(1) 歳入

(単位 千円・%・ポイント)

区分 年度	予算現額	調定額	収入済額	収入未済額	収入率	
					対予算	対調定
R1	1,700	1,017	1,017	0	59.8	100.0
H30	4,100	1,673	1,673	0	40.8	100.0
比較増減	△ 2,400	△ 656	△ 656	0	19.0	0.0
増減率	△ 58.5	△ 39.2	△ 39.2	-	-	-

歳入決算額は 1,017 千円で、予算現額に対する収入歩合は 59.8% (前年度は 40.8%) となっています。

歳入決算額を前年度と比べると 656 千円 (39.2%) 減少しています。

これは、主に区有林造成基金繰入金が 373 千円 (46.6%) 減少したことと、繰越金が 343 千円 (56.4%) 減少したことによるものです。

調定に対する収入率は 100.0% でした。

なお、雑入は、財産区共用自動車維持管理経費等負担金について、前年度実績を勘案して見直すことで、前年度比 60 千円 (30.0%) の増となりました。

(2) 歳 出

(単位 千円・%・ポイント)

年度 \ 区分	予算現額	支出済額	不用額	執行率
R1	1,700	594	1,106	34.9
H30	4,100	1,408	2,692	34.3
比較増減	△ 2,400	△ 814	△ 1,586	0.6
増減率	△ 58.5	△ 57.8	△ 58.9	-

歳出決算額は、594千円で前年度に比べて814千円(57.8%)減少しています。

これは、主に事務費(議会費)が465千円(98.3%)、区有林維持費(財産管理費)が355千円(68.7%)減少したことなどによるものです。

不用額は1,106千円で、その主なものは、委託料(財産管理費)985千円です。

なお、予算現額に対する執行率は34.9%で、前年度と比べて0.6ポイント増加しています。

支出の事務処理についても、おおむね適正に行われていました。

3 財産の管理

土地は1,420,301㎡で本年度中の増減はありませんでした。また、建物も139㎡で増減がなく、主要な物品についても、異動はありませんでした。

山林面積は1,415,261㎡で増減はありませんでした。

立木の推定蓄積量については、本年度中に所有270㎥、分収62㎥の成長があり、年度末現在高は所有29,293㎥、分収1,977㎥、計31,270㎥となっています。

区有林造成基金は、本年度427千円の取崩しを行った結果、年度末現在高が6,173千円となっています。

財産の管理については、おおむね適正に行われていました。

第6 意 見

財産区は、地方自治法第294条により、その設置が規定され、所有する財産又は公の施設の管理及び処分を主たる目的とし、その実施にあたっては、住民の福祉の増進に寄与するとともに、地区と市との一体性を損なわないように努めることが求められています。

名草財産区においては、実質単年度収支の赤字が続く厳しい財政構造となっており、特に歳入の確保に当たっては、木材価格の上昇が期待し難く、基金の取

崩し及び繰越金に頼らざるを得ない状況となっています。

昭和 29(1954)年に名草財産区が設置されてから、半世紀以上が経過し、社会・経済情勢は当時から大きく様変わりしており、区有財産の主体を成す森林は、木材生産機能のみならず、自然環境や国土の保全等、様々な機能が注目されています。郷土の貴重な緑を護るためにも、財産区のあるべき姿について検討を始める時期にあると考えます。